東海労 関西

２００９年
３月　２日
第５１８号

ＪＲ東海労新幹線関西地方本部
http://www.jrcu―kansai.com
発行責任者 船出 信政　編集責任者 山下 博

第14回定期地本委員会を開催！

ＪＲ総連の団結をさらに打ち固め、「反弾圧」と「職場からの闘い」を基礎にして、広く労働者の連帯をかちとろう！

２月２２日、ＪＲ東海労新幹線関西地本は、吹田サンクスホールにおいて第１４回定期地本委員会を開催しました。委員会は康乗副委員長の司会ではじまり、議長に柿本委員（大一両分会）を選出し議事が進められました。

主催者を代表して船出委員長が「世界同時不況で労働者を取りまく状況は大変深刻な事態であり、広く労働者の連帯をかちとろう。昨年の秋の闘いで、加藤誠二さんの不当解雇撤回・早期職場復帰に向けて連続的な闘いをつくりだし、全組合員参加による『ひとり一行動』を実現してきた。さらに反弾圧の闘いを推し進めよう。賃上げ・労働条件改善をはじめ、春の闘いを全国の仲間と連帯して闘おう！」と挨拶しました。

船出地本委員長

淵上本部副委員長

加藤ＪＲ総連共闘部長

来賓挨拶は、ＪＲ東海労本部を代表して淵上副委員長から「秋の闘いの中で、反弾圧の闘いや、１０月以降の新たな労務管理攻撃に抗して職場から闘いをつくり出してきた。春の闘いをしっかりとつくって行こう！」と挨拶を受けました。続いてＪＲ総連を代表して加藤共闘部長から「この間のＪＲ総連へのさまざまな攻撃に対して、ひとつひとつ反撃の闘いを積み上げてきた。２００９年は多くの裁判の判決が出されてくる中で、会社も権力もさらに労働組合を潰すために攻撃をしてくると思う。ひとつひとつ全力で闘い抜き、道を切り開いていこう！」と力強い挨拶を受けました。

質疑では全委員から積極的な発言を受け、各部答弁と湊書記長が総括を行い、２００９年春の闘いで、ＪＲ総連の団結をさらに打ち固め、反弾圧と職場からの闘いを基礎にして、広く労働者の連帯をかちとるために全力で闘うことを満場一致で確認しました。　（**ウラ面へ**）

委員発言の要旨

・勇退激励会の開催を組合員の方に喜んでいただいた。今後も心が通じ合うあたたかい組織をみんなでつくっていく。
・「蒲郡駅事件」裁判で、傍聴参加の取り組みを仲間を応援しに行こうと組合員と議論してつくってきた。
・会社の攻撃に打ち勝つために、組合員とともにいかに職場で闘うかをしっかりと議論してはね返していく。
・職場では特休が消化できない人が出て買取りが発生して、会社が決めた１２０日の休日すら満足に入らないような状況である。大量の新採をとる余裕があるのなら、現場に配属して休みの取れる労働者にやさしい会社にしてもらいたい。
・昨年秋の闘いを組合員とのきめ細かい議論を通じてつくってきた。
・ボーナスカット裁判で多くの仲間が傍聴に参加してくれて勇気が沸いてきた。今後も組合側証人の尋問に多くの傍聴参加をお願いします。
・新大阪駅２７番線の増設や引き上げの線拡張工事などの計画内容が、現場で働く社員には全く見えてこない。働く社員の環境や利用者の声を一切無視した形で会社の利益主導で一方的に進められている。身近な問題として、働く社員の環境改善、利用者の要望であるバリアフリートイレの増設や障害者用駐車場設置など改善する項目を労働組合として検証していく必要がある。
・組合員の病気のことも考えず一方的に業務を外して元職場へ復帰させ、管理者による人とは思えない暴言で体調を崩した。そのような会社のやり方を絶対に許すことはできない。
・７月の新幹線車両所組織改正について、作業面でも色々問題があるが何も会社から説明がない。組合員との議論をしっかりとつくりながら会社の組織破壊を許さず闘っていく。
・昨年１０月からの会社による新たな攻撃に対して、組合員との議論を通じて取り組みを強化していく。
・添乗試問は航空パイロットではない。ＪＲ東海会社の異常添乗を広く訴えていく。
・職場の問題を全体の問題としてつくっていく。
・様々な会社の攻撃・対応について、役員・組合員同士で「聞く、相談する」ことを通じてしっかりとつくっていく。
・反弾圧の闘いと同時に、職場の業務問題もしっかりと分析・宣伝・要求していく。来年度も特休の分散が発生する。６連続出勤をなくすように分散配置や分散変更など具体的に要求していく。
・旅客からの暴力で組合員に対して警察への事情聴取だけではなく、会社からの事情聴取も勤務時間外で長時間拘束する会社の対応はおかしい。